

米子城跡

国指定史跡

鳥取県米子市教育委員会

米子城 大小天守を持つ山陰随一の名城

米子市の中心地、標高90mの湊山に築かれた米子城は、別名「久米城」とも呼ばれ、山陰地方で他に先駆けて築かれた本格的な近世初期の城郭です。山頂に五重の天守閣と四重の副天守閣（四重櫓）の大小二つの天守を持つ壮麗な城で、周囲には二重の堀が巡らされていました。

当時の建造物は全て失われてしまいましたが、石垣や礎石などは城郭の形態をよくとどめ、また、文献や絵画資料なども数多く良好な状態で伝えられており、平成18年に国史跡に指定されました。

現在、湊山周辺は、「湊山公園」として市民の憩いの場として利用されており、西伯者を一望できる天守台からの眺望は、今尚、多くの人々から親しまれています。



米子城イメージ図（山陰歴史館所蔵模型を合成したものです）



湊山頂上の天守石垣

▲湊山頂上には、四層五重の天守閣と四重櫓の石垣が残され、天守の基礎として使用された礎石が整然と並べられています。



遠見櫓跡



鉄門跡



天守の礎石



枅形

▲高石垣で囲まれ二の丸には、門や二重櫓が配置された枅形入口や城主の居館、侍部屋などが築かれました。また、内堀で囲まれた三の丸には、馬屋や米蔵などが設置されていました。



湊山頂上より市街地を望む



内膳丸石垣



▶米子城主荒尾氏の家臣であった小原家の屋敷の一部で、城下の西町から二の丸跡の一角に移築されています。



旧小原家長屋門

深浦には、御手船（水軍）の基地として、船小屋や櫓などの施設が置かれました。また、湊山に隣接する飯山には、石垣で築かれた砦が設けられ、戦国時代には砦が築かれていたと伝わっています。



深浦



三の丸・飯山を望む

▶米子城の二重の堀のうち、内堀と外堀の間には武家屋敷が建ち並び、堀の外側に定められた町人町には伯耆各地の町人が移り住み、城下町として賑わいを見せていました。

なかでも、米子城の外堀として利用された旧加茂川沿いは、かつては米問屋、廻船問屋などの屋敷が建ち並び、米子港とを結ぶ水上交通路として賑わいました。旧加茂川沿いの一角には現在でも白壁造りの土蔵が残されており、かつての商都米子の姿を今に伝えています。

▼本丸の守りを強化する役目を果たした区画で、中村一忠の家老、横田内膳村詮によって築かれたことから、通称「内膳丸」と呼ばれました。

米子城の歴史

米子城は、応仁から文明年間（1467～1487年）に、山名宗之によって砦として飯山に築かれたのが始まりと伝えられます。

現在、「城山」と呼ばれている湊山の本格的な城は、西伯者の領主となった吉川広家が天正19年（1591年）に築城を開始したものとされます。しかし、慶長5年（1600年）の関ヶ原合戦に破れた吉川氏は完成した城を見ることなく岩国へ国替えとなり、替わって伯耆国18万石の領主として封ぜられた中村一忠によって、慶長7年（1602年）頃に完成されました。

一忠の急死により中村氏が断絶すると、会見・汗入6万石の領主として加藤貞泰が入城し、元和3年（1617年）には、鳥取藩主池田光政の一族、池田由之が米子城預かり3万2千石となります。

寛永9年（1632年）には、鳥取藩主家老の荒尾成利が米子城主となり、以後11代に渡って荒尾家が米子城主として政治を執り行いました。

明治2年（1869年）、米子城は士族に払い下げられ、全ての建物が取り壊されました。



伯州米子之図（鳥取県立博物館蔵）

米子城関係年表

時代	年号(西暦)	出来事
戦国	応仁元年 (1467年)	このころ、山名教之の配下 山名宗之 (宗幸) が米子飯山砦を築いたと伝わる。
	大永4年 (1524年)	出雲の尼子経久、伯耆に攻め入り米子城などが従えられる。(『伯耆民談記』)
	永禄5年 (1562年)	このころから米子城などは毛利氏によって制圧される。
安土桃山	天正19年 (1591年)	出雲・伯耆の領主 吉川広家が米子湊山に築城開始。
	慶長5年 (1600年)	関ヶ原戦いの結果、吉川広家は周防国岩国へ転封。
	慶長7年 (1602年)	駿河国府中城主 中村一忠が伯耆国領主となり尾高城に入る。
江戸	慶長8年 (1603年)	中村一忠が尾高城から完成した米子城に移る。
	慶長14年 (1609年)	11月14日、中村一忠が老職 横田内膳村詮を誅殺。 横田村詮の家臣ら抵抗し、出雲富田城主 堀尾吉晴の応援で鎮圧。(米子城騒動)
	慶長15年 (1610年)	中村一忠が20歳で急死し、中村家が断絶する。
	元和元年 (1615年)	美濃国黒野城主 加藤貞泰が伯耆国会見・汗入郡6万石領主となる。
	元和3年 (1617年)	幕府が一国一城令を発したが、米子城保存と決まる。
	寛永9年 (1632年)	加藤貞泰、伊予国大洲に転封。 因伯の領主となった池田光政の一族、池田由之が米子城預り(3万2千石)となる。
明治	明治2年 (1869年)	池田光仲が因伯の領主となり、以後、家老荒尾家が代々米子城預りとなる。
	明治5年 (1872年)	米子城が藩庁に引き渡される。
	明治6年 (1873年)	米子城山が、士族に払い下げられる。 城内の建物が売却され、数年後、取り壊される。



米子市立山陰歴史館

四重櫓の鯨や米子城天守の模型など米子城にまつわる歴史資料をはじめ、市内から出土した考古資料や、民俗資料など米子の歴史を物語る様々な資料を展示しています。

- 入館料 常設展無料 企画展・特別展は別途
 - 開館時間 9:30~18:00 (入館は17:30まで)
 - 休館日 毎週火曜日又は祝日の翌日 12/29~1/3
- 所在地 鳥取県米子市中町20
 TEL 0859-22-7161
 FAX 0859-22-7160
 Email saninrekishikan@dear.ne.jp
 HP <http://yonagobunka.net/rekishi/>

交通アクセス ●【JR】「米子駅」からだんだんバス「湊山公園」下車 徒歩5分 【徒歩】「米子駅」より約15分(米子城跡)
 ●【車】「米子駅」より約5分 【駐車場】湊山公園無料駐車場をご利用ください。
 (登り口から湊山頂上まで20分程度かかります。)